

看護小規模多機能・グループホームひなたぼっこ水道町
令和3年度第4回 合同開催運営推進会議議事録

日時	令和 3年 11月 25日 (木)
場所	看護小規模多機能 ひなたぼっこ水道町 1階フロア
出席者	<p>事業者 4名 看多機管理者平岩 CM内野 GH管理者伊藤 CM北村</p> <p>包括職員 1名 住民代表(町内会役員) 1名</p> <p>利用者 0名 市職員 1名</p> <p>利用者家族 1名 その他 2名</p>
議事内容・ご意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書の内容をもう少し詳しくすれば、現状把握しやすいし開催時の時間等短縮にもつながるのでは。例えば行事の詳細や利用者の反応などの結果、事故の詳細とスタッフとの協議内容その後の対応や経過など。(ご家族) ・グループホームの法的位置づけとして、『地域密着型』つまり地域と共存する施設であることが挙げられる。包括としてもそのような役割を期待している。施設と地域の互助については、話し合うなどの機会を持ちどういった状況の時にどのように助け合うのかその内容をはっきりさせておくことも大切である。必要であれば包括が協力することもできる。地域のための、身近な公的機関としてぜひ有効活用していただきたい。(包括様) ・面会について、利用者や家族の不利益とならないような工夫をお願いしたい。現在、世情動向に合わせた柔軟な緩和措置をしているということは、とても評価できる。一つお願いしたいのは、個別な事情によりワクチンを接種していない方々への対応である。くれぐれも”差別”につながらないように配慮していただきたい。(市職員様) ・町内役員はほぼ高齢者で構成されている。第一線を退いた年代の人たちが多い。施設がこれからも存続し、地域の中で生き生きと活動してもらうためには、町内の若い世代を巻き込んでいけるようにするとよいのではないか。大きな行事(お祭り等)も含め、日常的に関わりをもてるような活動を考え、実行して欲しい。(民生委員様)
その他アンケートより	<ul style="list-style-type: none"> ・早くコロナが終息し、母親に心配なく会えるようになってほしいと願っています。 ・家族同士の話し合いでは、コロナに感染する危険があるとしても外出や外部との交流をし人生最後の時間を楽しく生きてほしいという結論になった。ただ、共同生活なので無理にお願いはできないが、家族として母の人生を思うと楽しくいてほしいと願うばかりです。
今後の課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わり方(平時、災害時)をもう一度見直し、どう発信していくか検討、実行する ・高齢者虐待防止法、BCP策定への対応(3年後義務化決定)
次回の予	令和4年1月20日(木)